

乾乳期の放牧が分娩前後に及ぼす影響

福島県畜産試験場酪農部
平成17年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 畜産－乳用牛－放牧
分類コード 07－01－50000000
- 2 担当者 中村弥・川上麻里茂・阿部正彦
- 3 要 旨

酪農経営においては周産期疾病等の発生が生産性の低下につながっている。また、本県においては増加した遊休農地の有効活用が求められていることから、乾乳期放牧による運動を取り入れた管理により周産期疾病予防や分娩後の生産性への影響について検討した。

(1) 乾乳期時限放牧により心拍数が上昇し、運動としての効果が認められた。また、放牧により乾物摂取量が多くなる傾向にあった。

(2) 分娩後の固形物補正乳量、生産効率、体重当たりの乾物摂取量で乾乳期放牧（以下、「試験区」）と乾乳期舎飼繋留（以下、「対照区」）に差は認められなかった。

(3) 分娩前の体重増加は対照区で大きい傾向にあり、また、体重・BCSともに試験区の分娩後減少幅が小さい傾向にあったが、子牛生時体重は大きい傾向であった。発情回帰日数は、試験区・対照区ほぼ同じ結果であった。

(4) 乾乳期のインスリン感受性については、NEFA濃度の高い場合に低い傾向がみられたが、インスリン感受性、NEFA濃度に差は見られなかった。

(5) 周産期疾病の発生は認められなかった。放牧により乾乳期の代謝、分娩後の乾物摂取量の確保も見込めることから、周産期疾病の発生を防ぐ可能性が示唆された。

4 その他の資料など

なし